第２１回市民自治推進委員会　産業躍動部会会議録

（敬称略）

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和元年　５月２３日（木）　１８時００分～ |
| 開催場所 | アーニス２階会議室 |
| 出席者 | 川田　弘教（部会長）、吉田　武史（副部会長）、小川　昌宏、近井　一夫、宮下　裕次、安達　陽子（部会員）、森元　俊明、大澤　玲裕（庁内委員）、荒川　昌伸（アドバイザー）、大越　智輝、塚崎　翔太（事務局） |
| 欠席者 | 鈴木　高士（部会員） |
| 議題 | 未活用資源の観光商品化、地場産品を活用した料理教室について |

【地場産品を活用した料理教室について】

・登別温泉調理師登庖会青年部（以下、登庖会）より料理教室の講師を引き受けていただけるとの申し出を受けている。

・昨年同様登別消費者協会（以下、消費者協会）の全面協力による料理教室開催としつつ、講師は登庖会に依頼することを基本に考える。講師料は出ず、ボランティアとなるが、その点については登庖会了承済み。

・消費者協会は１１月９日（土）と１２月５日（木）に市民会館の調理室を予約しているので、このどちらかでの開催とする。

・消費者協会はホクレン農業協同組合連合会（以下、ホクレン）に補助金の申請を行っており、受けられることとなった場合、北海道産の米や牛乳を使うなどホクレンの出す条件を守っての事業実施となる。

・ホクレンの補助金を受けられるかどうかは６月中に決まる。決まったらすぐに消費者協会から事務局に連絡をしていただき、ホクレンの条件等を登庖会に伝え、実施の可否と参加者から徴収する参加費の額を確認する。

【未活用資源の観光商品化について】

・前回の部会では、ツアーの旅行会社への提案は長期的な目標とし、まずは観光マップを作成することとなったが、マップは各種団体において既に何種類も作成されていること、また掲載による悪影響が懸念される場所が相当数あること、マップ作成に大きな労力がかかることなどから、やはり本来の流れに立ち戻り、観光コースを作って今年度中に市民向けのモニターツアーを行うこととする。

（新たな観光コースに関するアイデア）

・特定のテーマに特化したコースがいくつかあると良い。最初にテーマを絞り、それに合う観光ポイントを挙げていく。食べる、見る、遊ぶなどの種類に分けるのも手。

・今年度はひとつのテーマに絞り、モニターツアー実施後に来年度に向け次のテーマを考える。

・最近はハード単体よりもソフトとの複合が好まれる。令和ブームで万葉文化館が人気となっているのが良い例。ハードに変化がなくてもソフトにより価値が知られるようになると需要が増える。

・観光客は食事でツアーを選ぶ傾向があるのでコース中に食事を入れると良い。

・小学生とその親をターゲットにすると多くの参加が見込まれる。

・前提として交通手段を決めておいた方が良い（予算による制限は一旦考慮しないこととする。市バスを使うのも良い）。

（テーマの候補例）

・地域の産業遺産：幌別鉱山

・登別に遡上する鮭

・アイヌ地名（神話を漫画にして聖地ツアーとする）

・天皇行幸の地

・食に特化した体験

・片倉小十郎

・札内の北海道らしい風景

【次回について】

・次回までに、各自アイデアを出して来ていただく。何について考えてくるのかは、庁内委員と事務局が調整し、開催案内に記載する。

●未活用資源の観光商品化について、地場産品を活用した料理教室について

日程：７月５日（金）１８：００